

2026年度予算案の主なポイント

政

府は昨年12月26日に
2026年度予算案を閣議
決定した。一般会計は過去最大の
122兆3092億円と過去最大の
規模である。予算案のうち社
会保障関係費は39兆559億円
となり過去最大となっている。以
下の主なポイントにコメントし
たい。医療保険制度改革については、
OTC類似薬に關し、患者の状況
や負担能力に応じて、まず77成分
(約1100品目)を対象に薬剤
費の4分の1の特別料金の設定を行
うこととした。これまで課題で
あつた点の見直しが進んだこと
は大きな前進と考える。国民への
周知広報を含めた丁寧な環境整
備が重要である。送りされたことは残念である。高
齢者の健康状態や就労状況は変
化しており、早急な利用者負担の
見直しを求める。まず、診療報酬改定については、
賃上げや物価に対応して本体部
分が26年度2.41%増、27年度3.
77%増(2年度平均3.09%増)と
大幅に増加した。薬価等は26年度
0.87%下がるが、全体でもプラス改定となる。予算編成過程にお
ける大臣合意の中では、施設類型
に応じたメリハリのある配分も
合意されており、医療機能の分化・
連携・集約化につながると期待し
ている。併せて後発品の報酬の適
正化などの方向性も示したこと
は評価できるが、保険給付費は診
療報酬改定がなくとも、高齢化や
医療の高度化で増加傾向にあり、
今回の診療報酬改定の健保組合
への影響については慎重に見極
める必要がある。賃上げや物価に対応して本体部
分が26年度2.41%増、27年度3.
77%増(2年度平均3.09%増)と
大幅に増加した。薬価等は26年度
0.87%下がるが、全体でもプラス改定となる。予算編成過程にお
ける大臣合意の中では、施設類型
に応じたメリハリのある配分も
合意されており、医療機能の分化・
連携・集約化につながると期待し
ている。併せて後発品の報酬の適
正化などの方向性も示したこと
は評価できるが、保険給付費は診
療報酬改定がなくとも、高齢化や
医療の高度化で増加傾向にあり、
今回の診療報酬改定の健保組合
への影響については慎重に見極
める必要がある。高額療養費は、重要なセーフ
ティネットだが、高額薬剤の開発・
普及により高額医療費が増加す
る中でどのように制度を維持し
ていくかが課題である。多くの関
係者が参画する「高額療養費制度
の在り方に関する専門委員会」の
昨年12月のとりまとめを踏まえて、
長期療養者等への配慮・多回回診
の場合は据え置き、年間上限額
の新設)や低所得者の負担へ配慮
をしつつ、自己負担限度額を見直
し、さらに高齢者のみを対象とし
た外来特例の見直しまで踏み込
んだことは評価できる。本原稿を執筆している時に国
会が急きよ解散された。予算案は、
衆議院選挙後の国会で審議され
る。少子高齢化が進む中で国民皆
保険制度を維持していくには、全
世代型社会保障の構築に向けて、
世代間の給付と負担のアンバラ
ンスを解消し、効率的な医療や介
護の提供体制を構築する必要が
あり、新しい国会では、それに向
けて制度改革が進むことを期待
している。賃上げや物価に対応して本体部
分が26年度2.41%増、27年度3.
77%増(2年度平均3.09%増)と
大幅に増加した。薬価等は26年度
0.87%下がるが、全体でもプラス改定となる。予算編成過程にお
ける大臣合意の中では、施設類型
に応じたメリハリのある配分も
合意されており、医療機能の分化・
連携・集約化につながると期待し
ている。併せて後発品の報酬の適
正化などの方向性も示したこと
は評価できるが、保険給付費は診
療報酬改定がなくとも、高齢化や
医療の高度化で増加傾向にあり、
今回の診療報酬改定の健保組合
への影響については慎重に見極
める必要がある。一方で、高齢者医療の利用者負
担の在り方や介護保険制度の利
用者負担の在り方の見直しが先